

## 平成 28 年度射水市行財政改革推進会議（第 2 回）議事要旨

- 1 開催日時 平成 28 年 5 月 27 日（金） 午前 9 時 30 分～午前 11 時 45 分
  - 2 開催場所 射水市役所小杉庁舎 401 会議室
  - 3 出席者
    - (1) 推進会議委員  
中村会長、小林副会長、海老委員、豊本委員、福田委員、牧田委員、松原委員
    - (2) 当 局  
副市長、教育長  
事務局：行政管理部長、行政管理部次長、財政課長、人事課長、人事課員 3 名
  - 4 欠席者 塚本委員
  - 5 傍聴者等 なし
- 

### 会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
  - (1) 射水市公共施設等総合管理計画（第 3 章以降の骨子）の修正内容について (資料 1)
  - (2) 射水市公共施設白書（案）について (資料 2)
  - (3) 第 3 次射水市行財政改革集中改革プラン実績報告書（平成 27 年度分）(案) について (資料 3)
  - (4) 今後のスケジュールについて (資料 4)
- 4 閉 会

#### <会議資料>

- 資料 1 射水市公共施設等総合管理計画（第 3 章以降の骨子）
- 資料 2 射水市公共施設白書（案）
- 資料 3 第 3 次射水市行財政改革集中改革プラン実績報告書（平成 27 年度分）(案)
- 資料 4 今後のスケジュールについて

## 議事要旨

(1) 射水市公共施設等総合管理計画（第3章以降の骨子）の修正内容について

(2) 射水市公共施設白書（案）について

一括審議

(委員) 前回の会議では、本市を取り巻く情勢が将来大きく変化した場合も想定して計画を策定するべきと発言したが、議論を通じてそのような想定を計画に盛り込むことは不可能であると理解した。そうであれば、射水市公共施設等総合管理計画（以下、総合管理計画という）というものは、あくまでも現状に基づいて策定しており、新たに市の全体構想を定める際にはそれを拘束するものではなく、また、市政の刷新を妨げるものでもないと明らかにしておくべきである。

また、将来にわたり公共施設の新設を抑制するにしても、今後新たな用地を一切取得しないということではないので、用地については、その保有総量を増やさないのだということが伝わるようにするべきである。それから、将来においても建設を容認する「重要な公共施設」とは何か議論となるのではないか。

(会長) どのようなものが重要な公共施設なのかを正確に伝えることは必要である。政策目標を達成するために行政サービスを提供するわけだが、その際に公共施設が必要かどうかということは大事な論点である。併せて、政策目標自体の良し悪しについても切り込んで議論する必要がある。総合管理計画の第4章の施設類型ごとの方針において、その点がうまく書けているところと、そうでないところがあるように思う。

(委員) 施設類型ごとの削減率にばらつきがあることが気になる。

市民は自分達の住む地域の施設が今後どうなるのかということに興味がある。施設の削減に関する目標を掲げることは大切だが、実際にこれを公表できるのか。

(副市長) 施設類型ごとに事情が異なるから、当然、削減率にばらつきが生じる。

また、総合管理計画は、平成27年3月に公表した公共施設の統廃合方針を前進させた内容であるべきと考えており、削減目標を示すこととした。

(委員) どのような公共施設でも恩恵を被っている人はいるので、感情論でいくと施設の削減は進まない。データからの考察を基にした割り切った結論が必要ではないか。

(委員) ただし、刺激が強すぎる表現は、かえって誤解を招くことになる。

(会長) まずは、「政策の変化や革新に柔軟に対応できるようにするためにも、現在保有する公共施設の適正な管理と厳格な評価が必要である」と、前段に示しておいて、その前提に基づき、将来的な施設建設は抑制するとしてはどうか。

- (委員) この部分の表現については、一切施設を新設しないのではなく、何か重要な事態があれば対応するという程度で丁度よいと思うので、「まちづくりに重要な公共施設のみ建設する」というような書き方がよいのではないか。
- (委員) 総合管理計画全体から悲観的な印象を受ける。将来世代へのメッセージとして、これはどうだろうか。新たな射水市を作るのだという明るさが必要である。
- (会長) 射水市総合計画の中で、将来の夢や希望的な部分が描かれているが、それらを実現しようとする多くの課題があって、その一つとして公共施設の問題がある。施設の複合化や統廃合は、決してサービスの低下につながるものでなく、より効果的な行政を実現することであると示せばよいと思う。  
それから、先ほど、別の委員の発言にもあったが、データに基づいた方針をしっかりと示して、市民の理解を得ることが大切である。
- (委員) ハコモノの保有面積の 20 パーセント削減を目指すとしているが、40 年後のあるべき姿として考えると、少なすぎるのではないかと思う。まずは、あるべき将来の姿に照らした適正な削減面積を示し、それを目標とするべきではないか。
- (委員) 削減目標として少なすぎるという意見だが、全体の削減目標は、施設類型ごとに考察した結果の積み上げである。その辺をきちんと整理して示すことで、誤解が生じないようにすべきである。
- (委員) しかし、感覚的に 20 パーセント削減では少なすぎるという意見もあるだろう。
- (副市長) 中長期財政計画以降(平成 36 年度以降)の長期的な財政見通しについては、当然、その間に国や県の制度改正もあるだろうから、正確な推計は不可能である。ただし、削減目標が財政的な観点から妥当であるか、公共施設等の更新費用が将来の財政に与える影響を簡易的に試算したところ、20 パーセント程度の削減は必要であるという結論が出ている。
- (会長) 削減目標を掲げた方が絶対によいと思う。削減目標が少なすぎるという意見もあるが、10 年ごとに見直しを掛けていくとするのが一つの答えだろう。いずれにしても、削減目標の理由をしっかりと説明することが大事である。また、総合管理計画を公開することで、自分達の地域の施設は今後どうなるのかという声が上がってくるだろうが、そこで丁寧な説明をすることで、議論が先に進むのだと思う。
- (委員) ここでもっと厳しい削減目標を示した方が、現実を実感できると言えないだろうか。

(会 長) 厳しく書くというのは、ありのままに正直に書いて、言葉尻でごまかさな  
いことだと思う。そのためにも、削減目標の理由をきちんと説明できるよう  
にしておかなければならない。それから、財政的な裏付けはあくまでも簡便  
な試算であるとはいえ、公共施設の削減が将来の財政運営に寄与することが  
伝わるようしっかりと示すべきである。

(委 員) 目標を示さないことが誤った憶測を生むこともあるので、数値目標を明ら  
かにすることは大切である。

(会 長) 射水市の場合は、市町村合併した自治体の共通課題である重複する施設を  
今後どうしていくのかということ、また、人口減少社会の中で施設をどうす  
るのかということ、あるいは、少子高齢化の中で行政サービスの在り方をど  
うしていくのかという要素を踏まえて結論をまとめる必要がある。そのため  
にも、総合管理計画の第1章・第2章できっちりと現状を整理して、第3章  
では、そのような現状があるから統廃合が必要であると示して、第4章にお  
いて、施設類型ごとに検討した結果、全体としての削減目標は20パーセント  
とするという流れでまとめるべきだろう。そのためにも、施設類型ごとの削  
減想定面積を示すべきである。

また、類似自治体との人口一人当たりの公共施設保有面積の比較において、  
削減目標を達成した際には、どの程度、他自治体との格差が改善するのかを  
成果見込みとして示すことも必要だろう。それから、現在、市が各公共施設  
を通じて提供しているサービスが公平で適切であるかをもう一度考察し、第  
4章の施設類型ごとの「将来あるべき姿」の記述に反映させることも必要で  
ある。

(3) 第3次射水市行財政改革集中改革プラン実績報告書(平成27年度分)(案)

(特に意見なし)

(4) 今後のスケジュールについて

(特に意見なし)